



直近のイベント 隠岐の4島を回って隠岐の良さを再発見しましょう！

豪華客船「飛鳥II」寄港	10月5日（水）	浦郷港付近
豪華客船「にっぽん丸」寄港	10月6日（木）	浦郷港付近
一夜嶽牛突き大会	10月13日（木）	隠岐の島町（五箇地区）
隠岐神社秋季大祭	10月14日（金）	海士町（隠岐神社）
西ノ島ハーフマラソン	10月23日（日）	観光交流センター前スタート
豪華客船「ぱしふいっく・びいなす」寄港	10月28日（金）	浦郷港付近
イカまぐろまつり・文化展・ふれあい健康福祉フェア	10月30日（日）	西ノ島水産総合ターミナル

黒木御所の「碧風館」がリニューアルされました！

2016年の春に後醍醐天皇の伝承資料館「碧風館」がリニューアルされました。今回のリニューアルで展示物の修復や整理を行い、歴史年表や後醍醐天皇の遷幸・還幸地図など当時の背景が分かる資料パネルも設置しました。以前より格段に展示が見やすくなっております。この機会に資料館や黒木御所に訪れてみませんか？開館時間は9：00～17：00です。休館日はありませんが、11月から翌年3月まで閉館します。町民のかたならどなたでも無料で入館できますので是非一度お立ち寄りください！



花の観察ツアーが催行されました！

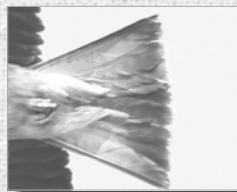
9月8日、9日に花の観察ツアーのご一行様が西ノ島を訪れました。花を専門とする旅行会社のツアーが西ノ島で催行されたのは、ここ10年では初めてではないかと思います。国賀海岸を周りながら、自生するトウテイランや牧地に一面に咲くセンニンソウに歓声をあげ、霧や海岸美との共演をひたすら楽しむ姿は新鮮でした。ツアーの最後に講師で写真家の「いがりまさし」さんが、「日本中の花の良い場所にたくさん行ったが、まだこんなに素晴らしい場所があったことを発見できて良かった。」と言ってくださいました。今回のツアーは昨年宣伝に行ったことがきっかけで実現したツアーです。今後も積極的に西ノ島の自然の素晴らしさを宣伝していきたいと思います。



発見！ 西ノ島の自然の魅力 Vol. 9 『バチ形の尾羽』

隠岐世界ジオパーク推進協議会が発行する「オキドキ秋号」にも掲載しましたが、秋の西ノ島は渡り鳥のシーズン。中でも赤尾展望所から見るタカの飛翔は必見です。でも「大きな鳥を見てもタカなのか何なのか分からない」といった声をよく聞きます。タカを見分けるポイントのひとつは、「尾羽の形」です。写真のように三味線のバチの形をしていれば、それは「トビ」（れっきとしたタカの仲間）です。日本に住む他のタカはほぼ扇形をしているので、トビかそれ以外のタカであることが分かります。秋の赤尾展望所では約10種類ほどのタカが見られます。観察は上昇気流が発生しやすい午前中がおススメです。まずは肉眼で尾羽の形を見分けることからチャレンジしてみませんか？（by 江崎）

「渡るタカの観察会」10月16日（日）午前8：00～9：00
赤尾展望所集合 申込必要（観光協会 7-8888） 定員20名



▲ バチ形の尾（トビ）



▲ 扇形の尾（ミサゴ）



国際交流員チェルシーによる『チェルシージャーナル』

懐かしのハロウィーン、わくわくの近所巡り

（国際交流員のチェルシーです。よろしくお願いいたします！）

ハロウィーンー 日本では馴染みが薄いと思いますが、ハロウィーンは私にとって、青春の大切な思い出です。毎年9月、紅葉をバックに学校が始まり、新たな学年に挑戦した頃にはもうハロウィーンコスチュームについて空想にふけていました。その年の気分や流行でプリンセス、〇〇戦隊〇〇レンジャー、黒猫、白いシーツ一枚に目玉用の穴をあけて「なんちゃってお化け」にもなったりしました。

10月31日の夕方はハロウィーンの本番で、子どもはコスチュームで変装し、袋代わりの枕カバーを持って「トリック・オア・トリート」という近所巡りでお菓子をねだり、楽しみます。この家もこの日のために全力を尽くし、驚きの発想力で家周りを飾ります。蜘蛛の巣をイメージして綿を薄く引っ張って扉にかけたり、パンプキンをイメージして落ちた紅葉をオレンジ色のゴミ袋に大量に詰めたりします。もちろん本物のパンプキンも玄関に置いてあり、目から出ているロウソクの光が足元を照らしてくれます。



8時頃に近所巡りは終了し、皆さんが家に帰り、もらったお菓子を数えたりします。普通は数えたら終わりですが、自分の家では次の独特な慣習もありました。近所で貰ったお菓子の半分を入院中の子どもに寄付するように、レジ袋に入れ、両親に預かってもらいました。そして翌朝、寄付したい子には、「パンプキンの神様のお礼」としてちょっとした玩具がおいてありました。

このように、ハロウィーンが毎年の行事として大きな存在でした。ほぼ10年間楽しんでいたら、いつの間にか近所巡りに参加できないいい歳（高校生）になりました。そして隣人にお菓子を貰う役でなく、玄関でお菓子配りをする役になり、時の流れを実感しました。

今、西ノ島にいて、「離島ハロウィーン」に挑んでいます。お店では当然パンプキン・パイが販売されないので、海外から缶詰を取り寄せたり、日本のカボチャがアメリカのパンプキンより何倍も硬くて彫れないので代わりに柿を使ってお弁当用の「パンプキン風柿」を彫ってみたいと思います！それでは皆さん、良いハロウィーンを！

